

## 2023年度 傾斜的研究費（全学分） 研究報告書

【研究代表者所属】：東京都立産業技術大学院大学産業技術研究科

【研究代表者氏名】：細田貴明

【研究代表者氏名フリガナ】：ホソダタカアキ

【研究代表者職】：准教授

【国内研究分担者（所属、氏名、職）】

・なし

【国外研究分担者（所属、氏名、職）】

・なし

【研究課題名】：教員の授業設計能力の向上に寄与する行動モデルの開発

【研究実績の概要（800～1000字程度で記入。図、グラフ等の使用も可。）】

・本研究は、東京都立産業技術大学院大学（以下、本学）で行われる授業の教育効果向上に向けて、授業力の形成および向上のための一つの方法論の開発を目指す研究である。本学を志望する学生が期待しているものの一つに、研究（理論）に基づく実践的な授業を履修することが挙げられる。これまでの授業評価アンケートや学生からのヒアリング結果から、各教員の授業品質は一定以上のレベルにあると考えることができるが、現役世代、シニア世代ともに学び直しの意欲が高まってきていることから、より高度な授業展開が期待されていくことが予想される。東京都立大学法人中期目標においても、本学が達成すべき目標として、研究の推進とともに先進的な教育手法の成果を積極的に発信することが掲げられており、次期中期目標に限らず普遍的に達成すべき目標であると考えられる。研究代表者は、本学のデジタルトランスフォーメーションに向けた施策に携わる中で、学生が主体的に学ぶことができる仕組みを提供することの重要性を感じ、その実践を授業において展開してきた。その結果を基に、大学院教育における新たな学習動機づけモデルを開発した。本研究は、授業設計において一定の効果があることが実験結果から確認できているが、他授業への応用や他教員が利用するための方法の開発までには至っていない。自身の担当する授業だけではなく、大学院全体の授業の質向上のための方法論として開発が必要ではないかと考えた。そこで、本研究では、本学教員が授業力の形成および向上を実現し、授業設計に利用することが可能となる方法論を開発することを試みた。その成果として、学生の学習意欲を喚起することが期待できる学習行動モデルの開発を行い、そのモデルの理論的妥当性について明らかにすることができた。その成果は、シンポジウムでの講演や国際会議における研究発表で情報発信を行い、幅広く理解促進に努めた。今後は、開発したモデルの実証研究を行い、その妥当性を明らかにすることを通して、本学教員さらには教育機関での授業設計のためのひとつの方法論として展開するように研究を継続する。

【学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）】

・ A Study of Methods to Enhance Skills for Designing Instruction in Teacher Preparation Education  
Takaaki Hosoda, International Symposium on Applied Information Technologies and Innovative Applications(AITIA2024), 2024年3月

”学びにつなげるための行動科学からのアプローチ”, 細田貴明,”行動科学とサービス応用に関するシ

ンポジウム” 招待講演, 2024年2月

【論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）】

・なし

【作品等】

・なし

【科学研究費助成事業への応募状況、採択状況】

・なし

【国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

・なし

【受賞等】

・なし

【その他社会貢献】

[公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]

・なし

【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】

・なし

(工業所有権の名称、発明者、権利者、工業所有権の種類・番号、出願年月日、取得年月日)

・なし

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名、所属、金額(円))

・細田貴明・丸山博之、東京都立産業技術大学院大学、410,000円